

# ワークサンプル作業検査（神奈川県版）等による 支援機関への支援を目的とした職業能力評価の取組みについて

○佐藤 守（神奈川県障害者雇用促進センター 雇用促進課 主任専門員）  
堀内 富士江・深水 豊子・高橋 悦朗・熱田 郁子・富田 香美・福田 麻奈美  
（神奈川県障害者雇用促進センター）

## 1 はじめに

当所は神奈川県産業労働局の機関であり、前身は昭和47年度に設置された労働相談センターである。昭和55年度から職業相談センター、平成7年度から障害者就労相談センター（以下「相談C」という。）、平成29年度から障害者雇用促進センター（以下「促進C」という。）に組織改編され現在に至っており、障がい者等への職業能力評価（以下「評価」という。）の事業などを行ってきた。

作業検査については、昭和55年度に身体障がい者や知的障がい者の雇用促進を目的に、主に製造業への就労をねらいとして職員が独自のワークサンプルを開発した。相談Cに組織改編となり、サービス業への就労者が増加したこと、精神障がい者の相談・支援が増加したことにより、財団法人労働科学研究所（現 公益財団法人大原記念労働科学研究所：以下「労科研」という。）へ委託して新たなワークサンプル作業検査（神奈川県版）（以下「ワークS」という。）を開発・実用化した。

相談Cから促進Cへ組織改編となり、利用者の直接支援から支援機関に対する支援へと事業目的が変わったが、労科研と協議してワークSの有用性を確認のうえ引き続き実施している。以下は、ワークSを中心とした3年間の評価の取組みについての発表である。支援機関等におけるアセスメントの参考としていただきたい。

## 2 評価の対象等・実施の流れ

### (1) 対象

- 就労支援機関等を利用する障がい者及び障がい者手帳を取得する可能性がある者
- 当該就労支援機関等が就労支援を行うに当たって必要と判断する者
- 評価の実施に本人が同意している者

### (2) 実施の流れ

電話等により相談受付 → 評価依頼書收受 → 担当者決定 → 初回面接実施 → 評価実施（1回2時間程度のワークで5～6回来所） → 評価会議提出 → 評価結果説明

\*初回面接と結果説明には、支援機関の職員が同席

## 3 現在実施している評価等

### (1) ワークS（個別作業検査）

担当者と1対1で行う作業検査

### (2) ワークS（集団作業検査）

4～6名のグループで行う共同作業

\*「牛乳ビンの運搬」は、集団作業検査の時間に含めて実施。

### (3) 厚生労働省編一般職業適性検査（GATB）

年間で日程を決めて講義形式で実施。障がい特性等によっては個別に実施する場合あり。

### (4) 【改訂版】ワークサンプル幕張版（簡易版）

- ・OA作業
- ・事務作業（数値チェック、物品請求書作成）

### (5) 職業レディネス・テスト

### (6) 心理検査（YG性格検査、PFスタディ等）

年間の日程を決め、精神障がい、発達障がいの診断を受けている方のなかで、依頼機関と相談し、本人の意向を確認のうえ実施。

### (7) その他

評価以外で、やりたい仕事、苦手な仕事、希望する勤務時間、対人関係の特性、生活管理の状況等を記載する「就労準備セルフイメージリスト」を作成していただく場合あり。

## 4 ワークSの内容

表の太字は、比較的難易度が高い17項目で、実施することを基本としている。ほとんどの利用者は、25から30項目実施している。

## 5 評価の実績

受付件数（図）は、増加傾向にある。令和元年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策により、2月末から3月中の受付を中止したため、受付を継続していれば10件以上増えたと思われる。

依頼機関の状況は、就労移行支援事業所、障害者就業・生活支援センター、地域就労援助（支援）センターを合わせて約7割となっている。障がい別状況は、精神障がい、発達障がいを合わせて約7割となっている。

評価を終了して半年以上経過した時点で、アフターフォローのために依頼機関へ連絡し、評価後の状況を聴取している。評価後に就労した者と評価前から就労していた者を合わせると5割を超え、福祉サービス事業所等の利用を開始した者は2割強となっている。

表 ワークSの作業項目

① 単純に並べる、置く、貼る作業	1	中ラベルの貼付
	2	<b>同種の引っかけ</b>
	3	同種の取り外し
② 揃え、分類して並べる、置く、貼る(巧緻、精密)作業	4	<b>段ボール箱の組立</b>
	5	<b>小ラベルの貼付</b>
	6	<b>多種の引っかけ</b>
	7	<b>加速コンベアへの部品並べ</b>
	8	変速コンベアへの部品並べ
③ 簡単な袋詰め、箱詰め、箱組立作業	9	紙箱組立と卵模型詰め
	10	<b>紙箱組立と球模型詰め</b>
	11	ブロック2種の箱詰め
	12	<b>ナスの袋詰め</b>
④ やや複雑な袋詰め、箱詰め、箱組立、紐かけ作業	13	ミカンの袋詰め
	14	<b>ブロック多種の箱詰め</b>
	15	<b>リネンたたみ</b>
⑤ 道具使用による組立、加工作業	16	<b>リネン紐かけ</b>
	17	軍手紐かけ
	18	<b>パターン組立</b>
⑥ 移動、運搬作業	19	木箱づくり
	20	*牛乳ビンの運搬
⑦ 簡単な計数、仕分け、分類作業	21	ビニールタイの5本ずつの仕分け
	22	ビニールタイの20本ずつの仕分け
	23	<b>ビニールタイの同数5分割</b>
	24	カラーカードの分類
	25	リネン仕分け
⑧ 3桁計数、コードによる仕分け、分類、照合、補充作業	26	<b>ビニールタイの100本ずつの仕分け</b>
	27	3桁コードによる仕分け
	28	かなと3桁コードによる仕分け
	29	<b>伝票による品出し</b>
⑨ 計量作業	30	伝票による品補充
	31	カップ目盛りによる計量
	32	<b>はかりによる直接計量</b>
⑩ 清掃などの軽作業	33	<b>はかりによる間接計量</b>
	34	<b>穴あけ</b>
	35	掃除機による清掃
⑪ 共同作業	36	窓拭き
	37	ボルト・ナットによる組立分解作業

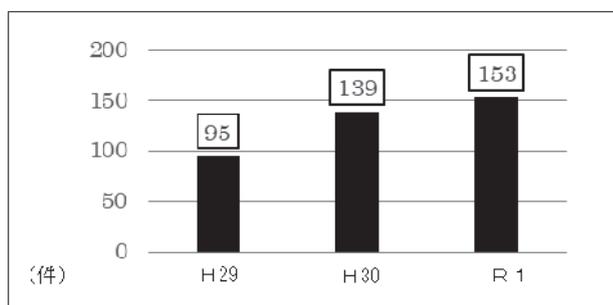


図 受付件数の推移

## 6 事例

### (1) 就労移行支援事業所から依頼 50代・男性

- 気分障がい・精神障害者保健福祉手帳3級
- 大学を中退・20年間就労後、5年間就労歴なし
- 障がいの者の福祉サービス事業所に通所中

- 評価の結果 → 作業能力は速度・精度とも概ね良好だが、集団作業検査と職業レディネス・テストでは対人関係の苦手さが顕著。GATBでは、認知機能が高く、「手腕の器用さ」は比較的高かったが、「運動共応」と「指先の器用さ」は低かった。「販売」「個人サービス」等の適性職業群が検出された。事務系業務は希望しないとのことで、OA作業は実施せず。
- スーパーのバックヤード業務で正規職員採用
- (2) 市町村生活困窮担当から依頼 20代・男性
- 障がいの診断なし・手帳なし
- 高校卒業・長期的ひきこもり・多少のパート経験
- 評価の結果 → 作業能力は速度・精度ともかなり高く、集団作業検査でも他者への声かけが的確だった。GATBでは、「言語能力」「書記的知覚」が標準値を超え、「指先の器用さ」「手腕の器用さ」は標準値に近かった。「動物の調教・管理、水産養殖、園芸」等の適性職業群が検出された。OA作業では、基本的な入力は可能。
- 動物に関する会社の清掃業務でパート採用

## 7 依頼機関からの話

アフターフォローの際などに聴取した主な内容。

- 障がい特性が明確になったことで、支援方法がわかり就労につながった(就労移行支援事業所)。
- 本人の同意を得て、評価結果を関係機関で共有し、連携して支援している(障害者就業・生活支援センター)。
- 配慮・工夫があれば働けること、就労支援機関の支援が必要であることを認識した(市区町村)。
- 評価を受けたことで配慮事項が明確になり、短時間からの就労など求人への選択に役立った(ハローワーク)。
- 利用者が当所に通うには、交通機関の利便性が良くない(就労移行支援事業所)。

## 8 まとめと課題

件数の増加や依頼機関からの話からみると、当所の評価への一定のニーズはあると受けとめている。複数の評価を総合的に実施していることが、役立てている理由の一つであると考えている。

就労移行支援事業所からの依頼の割合が高くなっていることは、一つの課題であると言える。就労移行支援事業所は、アセスメント機能を有している機関であり、職場実習等を含めて事業所内での評価が望まれる。当所(県)としては、研修面でのアプローチも並行して実施する必要があると考えている。

また、当所が横浜市に所在しているため、県の西部地域からのニーズに対応しきれていないことも課題と言える。何らかの方法で、広域の依頼に対応できるよう検討が必要だと考えている。